

果樹のハウス（ビニール被覆）栽培

果樹栽培もだんだん芸が細くなってきて、特にブドウでは昭和40年代にはいつからハウス栽培が急激に増加し、昭和45年においてすでに約500haに達している。品種はジベレリン処理のデラウエアが主体であるが、そのほかキャンベル・アーリー、ネオ・マスカット、巨峰にまで及んでおり、しかも加温と無加温の場合があるという複雑さである。ハウス栽培の経営面における意義としては、促成栽培であるために収益性が高いこと、露地栽培に比べると多くの労力を要するが、ハウス栽培において労力が集中する時期は露地栽培では農閑期にあたるため、労力配分が比較的容易であることの2点があげられる。したがって、労賃や地価が高いために収益の増加を規模拡大に求めることができない地帯の生産者にとっては、不自然な生産であるとする批判を越えて、ハウス栽培による収益性の向上は大きな魅力であり、また我々も認めざるを得ない現実でもある。いずれにしても、この技術は生産者が始め、同時に主として生産者の創意工夫によって発展した技術であるから、必然的にかなり篤農技術的な性格を有しており、古くから行なわれているマスカット・オブ・アレキサンドリアを主体としたガラス室ブドウについても同様のことがいえるであろう。こういった種類の技術に対して、試験研究がどのようにして対応するかは、今後には課せられた一つの問題点であろう。

（農林省果樹試験場果樹部長 千葉 強）

目 次

（第7巻第1号）

野菜に対する新生長調節剤

1. 改良トマフィックス	3
2. B C B	3
3. トライロントマトA, B錠	5
4. エスレル	7
5. FC-907	17
6. ベンジルアデニン	23

農林省野菜試験場 栗山尚志

昭和47年度茶園関係除草剤・生育調節剤試験成績概要

I 除草剤	25
II 生育調節剤	26

農林省茶業試験場 青野英也

昭和47年度桑園関係除草剤・生育調節剤試験成績概要

A 除草剤	29
B 生育調節剤	31

農林省蚕糸試験場 蒔 祐彦

昭和47年度林地関係除草剤・生育調節剤試験成績概要

I 除草剤	33
II 生育調節剤	33

農林省林業試験場 真部辰夫

新除草・調節剤

C M P T 除草剤	34
-------------------	----